



1995.1.26
日本テキスタイルデザイン協会
理事長 上野昌男

理事長挨拶/就任にあたり

人と繊維の関わりは古く長いもので、これ程人の生活に密接な関係にあるものは、食と共に他に類を見ません。

14、5世紀における科学技術への目覚め、その後産業革命による大量生産方式の確立によって経済的な効果を発揮しながら繊維産業は幅広い発展を遂げて参りました。我が国に於ても、それらの世界的技術の導入とその浸透により、繊維産業の規模や構造は基幹産業として大きく成長発展致しました。そして今日の生活文化(衣食住健学遊)に深く根ざし、産業の裾野の拡大と経済発展に大きく貢献したことは言うまでもありません。

私はこれら繊維産業の発展は、技術の向上はもとより素材に対する研究とデザイン力の支援があったものと確信致します。技術と感性即ちデザインが共存する事によって産業の発展がなされたといっても過言ではありません。

今日「繊維」が果たす生活への役割は、ファッション衣料やインテリア等日常的なものは勿論航空機、自動車、建築、精密機器、医療、農水産等広い分野に及んでおります。この様な「繊維」をデザインの行為を通じて支え、次代に引き継いで行くには、複雑に広がった分野を丹念にほぐし、知り研究し、生産側と生活者側の双方から、そのあり方を考案することが最重要課題といえましょう。

それにも拘らず業界に於ては、テキスタイルデザインの重要性は本当に認められてきたでしょうか。理解はされているものの繊維産業の小さな歯車の一つとして今や押し潰されそうになっております。デザインが完成されたものとして数年間使用、かつ製作デザイナーの名が残るインテリア分野ではまだしも、衣料分野はアパレルデザインの重要性に隠れてしまい有名アパレルデザイナーの名ばかりが目につきます。

また私達が考えるテキスタイルデザインとは単に絵柄の問題ではなく、プリント製品を始め織り編物からそれを生み出す現代機器、コンピューター業界に至るまでをテキスタイルデザインの対象と考え、今回日本テキスタイルデザイン協会が設立されました。

日本には総合デザイン協会、インダストリアルデザイン協会など16の法人デザイン組織があるにも拘わらず何故テキスタイルデザイン協会が今迄になかったのだろうか、不思議に思われます。

1955年日英意匠会談において当時の染色加工業者による英国意匠の盗用問題に端を発し、日本紡績協会、日本綿糸布輸出組合等業界8団体の申し合わせにより通商産業省の指示で日本繊維意匠センターが設立されて以来、天然繊維関係のテキスタイルデザインに就いてはデザイナーの交流、デザインの審査登録、コンクールから人材育成に至る財団法人組織が確立されておりましたがこれも今から10年前に解散され形を変えてその後地域の産業活性化のため繊維リソースセンターが設立されております。しかしそれらは設備を主とするハード面では充実されておりますが未だデザインを主とするソフト面では開発途上となっております。私達日本テキスタイルデザイン協会はこれらの機関と協力し、一体となってテキスタイルデザインの発展に寄与したいと存じます。

このように私達は「繊維」という共通のテーマ=素材をもち共に「テキスタイルデザイン」を扱う職能分野に生きる個人、法人、機関に対し未来社会に向って「豊かな生活文化の創造」と「我が国繊維産業の活性化」を目指した積極的発言と行動を起こそうではありませんか。

日本テキスタイルデザイン協会は平成7年1月26日に設立されました。当分の間は任意団体として小規模なスタートですが、その活動のなかで、会員皆様方の信頼を得、組織としての力を蓄えて近い将来法人化を実現させ、各行政機関、企業、団体への働きかけを活性化させようと考えております。

心を同じくする幅広い皆様方の深いご理解とご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

TDA
NEWS
1995.4
臨時号

設立 1995.1.26 記念
THE TEXTILE DESIGN ASSOCIATION OF JAPAN
日本テキスタイルデザイン協会

理事長挨拶	①
副理事長挨拶	②
組織・役員人事	③
運営組織と活動目標 ビジョン	④
各事業部の初年度 活動目標と方針	⑤ ⑥
設立総会・記者発表会	⑦
記念懇親会	⑧ ⑨
記念講演会	⑩
会員・賛助会員の方々から 協会活動へのメッセージ	⑪
インフォメーション	⑫